

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をフロアに掲げ、ミーティング時には唱和し、その目標に沿った支援が出来るように努めている。	開設時、職員全員で考えた理念「地域と共にその人がその人らしく安心して生活できるほほえみの家」を常に念頭におき、それぞれの利用者の気持ちに寄り添い、ゆったりとした生活が送れるよう利用者一人ひとりに合った支援を行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方とのお茶会を月に1回開催している。散歩や畑仕事の際には挨拶や言葉を交わし交流している。	自治会費を納め、日々の散歩で近所の人々との交流も広がり、地域に根付き始めている。地域の方の提案によりお茶会が開始され、ボランティアの方との交流も深まり利用者も楽しんでいる。今後更に近所の方が気軽に来訪できるような雰囲気づくりに取り組みたいと意欲を示している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフ全員が認知症サポーターの養成講座をうけ、地域住民の認知症サポーターとし地域に貢献できるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告をする中から得られた意見を参考にさせていただき、サービスの向上に活かせるよう努力している。	自治会長、民生委員、市議員、消防署職員、交番所長、市担当者、地域包括支援センター職員が出席し偶数月の第3水曜日に開催している。行事や利用者の様子を報告し、各委員と話し合いをする中で地域との交流が深まるように取り組んでいる。委員の提案により住民参加のお茶会が始まり現在も定期的に開かれている。	家族の出席が難しいので今後は家族が出席しやすい日程や内容の検討、各家庭から書面で意見・要望を頂くなど、できるだけ家族の思いが運営会議に届くような工夫を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席いただき助言をいただくなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の理学療法士に依頼し、それぞれの利用者の運動能力に合ったアドバイスを受けている。介護相談員の来訪が年4回ある。施設内の転倒等についても市に報告し相談している。介護保険更新申請は家族の依頼を受けて代行し、認定調査は家族同席のもとホームで行ない、調査員に日々の利用者の様子を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のない介護について研修し職員の理解を深め、身体拘束のないケアに努めている。	全職員が毎年定期的に研修を受けており、マニュアルに基づいて身体拘束をしないケアについて学び実践している。玄関の施錠も含め身体拘束は行っていない。外出を希望する利用者には気持ちが満足するまで職員が付き添って歩いている。本人の思いを理解し行動を制限することのないより適切なケアを行ないたいとケア会議で検討している。	

ニチイケアセンター上田緑が丘(グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修をし職員の理解を深め、虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象となる入居者がいないが、今後活用できるように、学ぶ機会を持てるよう努力したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約は十分な説明を行い、不安や疑問については何でも質問してもらい説明をし、納得していただき理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された時は職員と話す機会を作り、いつでも意見や要望が出せる環境作りに努めている。家族会は発足させたが、定期的な会にはなっていない。	利用者は言葉や表情で思いを表すことがあり、職員は声をかけて聴いている。情報にはなかったがハサミで器用に紙を切る利用者に驚かされたこともある。家族の来訪は週1回、月1回、遠方の方も年4回は見えている。家族の来訪時には利用者の状況を伝え意見や要望を伺い、家族の思いを反映できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングや日常の業務の中で意見や提案を聞き、話し合いの時間をとるようにし、反映できるよう努めている。	毎月15日前後に業務ミーティングを行ない、夜勤者以外が全員出席し利用者の状況やケア方法・体制等について活発に話し合っている。改善した点もいくつかあり利用者のより良いケアにつながっている。管理者による個別面接を年1回行い、また、必要時に面談し、職員も意見や要望を伝えることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ面談を行い上司と情報共有するようにしている。また働きやすい職場作りを目指して職員とのコミュニケーションをとるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外問わず研修の周知を行い働きながらスキルアップを促している。毎月の業務ミーティング時には研修を行っている。		

ニチケアセンター上田緑が丘(グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	物忘れネットワークや事例健検討会等への参加によりネットワーク作りや同業者と交流する機会を持ちサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を聞くと共に、その様子の中からも感じ取り、安心を確保するために関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時や事前訪問時に時間をかけて話を聞き寄り添うことで関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時何が必要か柔軟に見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ここで暮らす一員として生活に必要な毎日の流れを大切にし、みんなで協力して生活していけるような関係を築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に面会に来てもらいここでの暮らしぶりを感じてもらうことと、家族の絆を大事に出来る時間を持ってもらうことで、共に本人を支えていける関係が築けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人のもとへ家族と一緒に 出掛けられる環境作りや、近所の人や友人にも気軽に面会に来てもらえる雰囲気作りをしている。上田城や初詣など馴染みの場所へのお出掛けをしている。	利用者は地域の店や美容院、親せきの家などに家族と出かけたり、職員と市内の馴染みの神社、城、寺などの観光地に出かけることがある。お墓参りなど、地域の行事や習わしも大切にしている。また、毎月来訪するボランティアも利用者にとって親しみのある存在となってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で自然に生まれる協力する係わりや、それぞれの個性を尊重し、支え合える関係が築けるよう支援している。		

ニチイケアセンター上田緑が丘(グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援が必要な方がいれば、これまでの関係を大切に相談や支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望をその人の言葉やそれ以外の部分から発信されるものから理解するよう努め、これまでの暮らしの中からも見出せるよう努力している。またスタッフ間の話し合いの中からも検討している。	利用者の言動を注意深く感じ取ってその時の思いを推察し理解するように努めている。また、家族や親せきからも今までの暮らしの様子を聴きながら利用者の思いや現在の生活の意向を把握し、よりよい支援方法をスタッフ間で検討している。利用者1対1で接する時に心を開き思いを話す利用者もいるので情報を得る大切な機会として捉えている。利用者の眩きをセンター方式に書き加えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から聞き取りをし、不足している部分については随時把握するよう努めている。また本人との係わりの中でわかって来ることを記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中から見えてくるものを記録に残し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで利用者の現状を把握し、必要に即してモニタリングし、担当者会議を行い介護計画の見直しを行っている。	本人、家族の意向を聴きながら利用者主体のより良い暮らしに繋がる介護計画を目指して全職員が協力し作成している。個別の日常生活支援シートを用いて担当者が概ね6ヶ月または利用者の状況に即して必要時に評価し、介護計画の見直しにつなげている。担当者会議、モニタリングを元にケア会議が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを介護記録に残し、職員間で情報共有し、必要に応じて担当者会議を開き、介護計画の見直しや実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生まれる様々なニーズに対し、スタッフ間で柔軟に話し合い対応するよう努力している。各連携機関との連携にも努めている。		

ニチイケアセンター上田緑が丘(グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、民生委員やボランティア、警察や消防の協力を得ながら安全で豊かな暮らしが送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族で対応していただき、希望があれば往診もしていただいている。急な体調の変化があった場合は、医療と介護の連携連絡票で情報を提供している。	利用前からのかかりつけ医を継続している利用者 と受診の都合上ホームの委託医の往診を希望し移行した利用者がある。月に1回訪問歯科診療があり口腔内清掃、義歯等の治療も必要時に行なわれている。家族への往診結果の報告は管理者または介護リーダーを必ず通して行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制が取れるよう検討していく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室との情報交換や相談に努め、安心して退院できるよう連携を図っていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療依存度が高くなった場合は対応が難しくなることを説明し、重度化した場合に備えて早い段階から今後の対応を話し合い、地域の関係者と共に支援できるように努めている。	重度化や終末期のホームの支援方針については契約時に利用者・家族に伝えており、管理者は日頃から利用者の生活や健康状態の変化を詳細に家族に伝え、重症化した場合は主治医、市職員などと連携をとりながら利用者の心身の状態に合った暮らしやすい場所への移行を支援している。	日頃から職員全員で重度化や終末期にホームができる最大限の支援について話し合い、利用者・家族が不安なくサービスを受けられるよう、更に支援していただくことを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置と緊急時の対応について研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、全スタッフが災害時の対応を身につけている。5月には消防署の立会いをお願いし助言をいただいた。地域の方にも訓練をお知らせしているが、ご参加いただくまでには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した言葉掛けや対応をしている。また気になることがある時は、その都度管理者が個別に話し合いの場を設け対応している。	利用者の気持ちを考えながら安心し気分を害さない言葉かけや支援を行なっている。入浴や排泄に関する支援の際は特に配慮し、利用者の意思を尊重するようにしている。また利用者の生活機能が最大限活かされるよう、衣服の着脱や食事の片付けなど見守りながら支援を行なう場合も多い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表現しやすい関係作り、自己決定できる環境作りを心掛けている。自己決定出来ないと決め付けず、選択しやすい工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく一日が送れるよう暮らしのリズムを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットの希望で美容師が来てくれる。家族と行きつけの美容室に出掛けたり、季節に合った洋服を買いに行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大切に食材を選び、お料理の仕方を相談したり、一緒に調理したり、食事を楽しんだりしている。	毎日の食事の準備は利用者と職員で行なっている。知人から頂いたり畑で採れた野菜を急遽献立に組み込み、利用者と一緒に調理することもある。年2回ほどレストランへ外食に出かけ、利用者はメニュー選びや食事を楽しみ、驚くほど沢山食べられるという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量や水分摂取量を把握し、おかずの形態や食べやすい器にするなどの工夫をしたり、水分摂取の回数を増やしたりして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けをし、各自行っていたり、本人の力に応じた対応をしている。月に1度協力医療機関の歯科医による訪問診療を行っている。		

ニチケアセンター上田緑が丘(グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な場合は声掛けを行い、気持ちよく不安なく排泄できるように支援している。	介護記録により全職員が利用者の排泄パターンを共有し、声掛けや支援を行なっている。職員は利用者の自立支援の視点をもちケアを継続しており、排泄動作に改善がみられた利用者も数人いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事を提供し適度な運動と水分摂取を心掛けている。排便リズムを把握し、必要に応じて薬を服用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿って入浴できるよう心掛け、慌てずゆっくり入っていただけるように支援している。	入浴時間はほとんど午前中で、希望があれば午後でも入浴は可能である。回数は週2回程度で一人の入浴時間は衣服の着脱も含めて30～40分ぐらいと余裕をもっている。入浴予定日に気が向かない方は清拭や翌日に回すなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく休んでもらえるように布団干しやシーツ交換はこまめにする。一人ひとりのペースで休息できるよう配慮したり声掛けしたりしている。特に夜間は安心して眠れるような雰囲気作りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬について全職員が理解し、服薬支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	琴やハーモニカ、お茶会のボランティアが毎月訪れることで気分転換や張り合いになっている。縫い物や習字、畑や花壇作りや上田城へのお出掛けの支援を行う。家事を役割としてお願いしたり一緒にする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けたり、レストランでの食事を支援している。普段いけないような場所は家族の協力を得られるよう支援する。	日常的に事業所周辺を散歩することが多い。その他レストランへの外食やお寺・神社への初詣、地域のどんど焼き等に出かけている。また、家族と一緒に自宅に帰ったり、買い物、外食、温泉等に出かける利用者もいる。	

ニチケアセンター上田緑が丘(グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い金をお預かりして事務所で管理している。外出の際は自分で支払ってもらうことも支援する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に電話をしたり手紙のやり取りをしたり、希望があればいつでも出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感満載の作品とカレンダーを飾り、清潔で明るいフロア作りをしている。自然の光や風を感じられるように心掛けている。	ゆったりとしたスペースの居間兼食堂にはテーブルとイス、東側の窓際にはソファとテレビ、西側にはオープンキッチンが配置され食事作りの様子を感じながらくつろげる空間となっている。食堂や階段、廊下には利用者が季節ごとに制作した大きなカレンダーが飾られ温かい雰囲気である。昼食時には静かな曲が流れていて心地良かった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを置き特別な空間を作り、自由に使ってもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し馴染みのものを持ち込んで居心地よく安全に過ごせるように工夫している。	居室は9室でベットまたは布団を使用し、壁には家族との写真や孫からの手紙などが飾られ家族とのつながりが感じられた。窓から柔らかな日差しが充分に入り全体が明るく、清潔感のある居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることやわかることを把握し安全に出来るだけ自立した生活が送れるよう支援している。バリアフリーで手すりが全面に付いている。トイレも一目でわかるように表示している。		